

## 【第11回歴史都市防災シンポジウム】

開催日時：2017年7月1日（土） 10：00～17：40

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館

参加者：120名

講演者：立命館大学 歴史都市防災研究所 客員研究員 北原 糸子

概要：

立命館大学衣笠キャンパスにて、第11回歴史都市防災シンポジウムを開催した。歴史都市や文化遺産の防災に関する35件の研究発表と活発な討議が行われ、全国から約120名の参加があった。

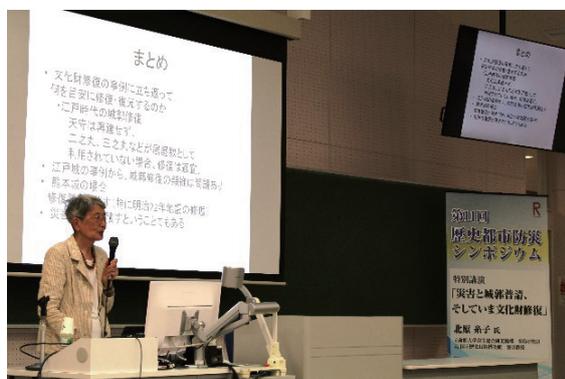
セッションは、歴史災害、文化財防災、地震・耐震、防災技術、市街地防災、避難計画、防災計画のあわせて8セッションで、それぞれ座長である本学の教員のもと、さまざまな研究発表と活発な討議が行われた。また、当研究所の社会連携・国際連携活動を紹介する特別セッションも設けられた。

特別講演企画では、当研究所客員研究員の北原糸子先生より「災害と城郭普請、そしていま文化財修復」と題して、2016年の熊本地震により関心の高まった城郭の被災と修復の歴史について、特に江戸時代の地震災害による大規模な城郭修復の事例を紹介しながらご講演いただいた。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol. 11」として刊行している。



会場の様子



特別講演の様子

## 【立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2017】

開催日時：2017年8月28日（月）～9月16日（土）

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 他

参加者：11名

概要：

2017年8月28日（月）から9月16日（土）の20日間、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Management, International Training Course (ITC) on Disaster Risk Management of Cultural Heritage 2017, 12th year, Ritsumeikan University）を実施した。第12回目の本年度は、世界各国より235名の応募者の中から、ブータン、フィリピン、トルコ、マラウイ、マレーシア、ブラジル、ラオス、インド、フランス、イタリア、ミャンマーの計11名を選出し、招聘した。研修では、世界各国から文化遺産防災、保護に関する専門家を招き、日本の文化遺産と危機管理に関する取り組みのみならず、世界各国特有の文化遺産保全と防災の現状と今後の課題についても理解を深めた。

また、今年から、独立行政法人国立文化財機構にご共催いただき、動産・不動産文化財の災害からの保護に関してご教示をいただきながら、総合的な防災手法やアプローチを考察した。具体的には、当研究所内での講義、京都市内の社寺、景観保全地区の見学、京都国立博物館での実習を通じて、日本の文化遺産防災計画、自然災害への対処、文化財の保全修復等を学び、さらには、世界文化遺産に指定されている熊野地域の水害や土砂災害からの復興プロセスや神戸北野地区の視察を通じて阪神淡路大震災からの長期的な復興を学んだ。

最終日に行われた国際シンポジウム「日本と世界がともに目指す文化遺産防災」では、国内外から約75名が出席し、グローバルな視野から、過去の災害から得られた教訓を元に、これからの防災研究のあり方について考察する大変有意義な場となった。また、一部の研修者も研修の成果を発表し、研修後、自国での文化遺産防災への取り組みをより強固なものにすべく、今後の活躍が期待できる発表内容であった。

立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修は、これまで実施した研修実績をもとに、立命館大学内外の研究者、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）文化遺産国際協力センター（ICCROM）、ICOMOS/ICORP（国際記念物遺跡会議防災国際学術委員会）、ICOM（国際博物館会議防災危機管理委員会）の国際機関、文化庁をはじめとする行政、そして現場の専門家など多彩な講師陣、また、世界各国からの研修者の積極的な参加により高い評価を得ている。本国際研修では、今後も、当研究所の研究成果に基づいた国際社会に向けた成果発信や貢献活動を継続していく。



清水寺修理現場の視察



世界遺産清水寺の訪問



保存地区の視察（市民消火栓）



京都国立博物館での現場実習



リスク評価のフィールドワーク（先斗町にて）



緊急対応における討議（当研究所にて）



京都市消防局の講義（東福寺にて）



東福寺にて



横垣峠（三重県）



ケースプロジェクトと討議の最終プレゼンテーション



送迎会と修了書授与



国際シンポジウム グループ写真

## 【講師一覧】

### ■ 国外招聘講師

Joseph Allan KING	Director of the Sites Unit, ICCROM
Giovanni BOCCARDI	Head, Emergency Response Unit, UNESCO World Heritage Centre
Aparna TANDON	Project Manager, Collections Unit, ICCROM
Corine WEGENER	Director, Smithsonian Cultural Rescue Initiative, Office of the Provost/Under Secretary for Museums and Research, Smithsonian Institution
Elizabeth KIRBY	Grants Development Specialist, Office of the Provost and Under Secretary for Museums and Research, Smithsonian Institution
Elke SELTER	Expert Emergency Response, Emergency Preparedness and Response Unit, Culture Sector, UNESCO
Kai Ube Prasad WEISE	Architect, Planners' Alliance for the Himalayan & Allied Regions (PAHAR Nepal)
Rohit Kumar RANJITKAR	Nepal Director, Kathmandu Valley Preservation Trust (KVPT)
Rashmin GUNASEKERA	Senior disaster risk management specialist, GSURR, World Bank
Lee BOSHER	Senior Lecturer, The School of Civil and Building Engineering, Loughborough University
Ksenia CHMUTINA	Lecturer, The School of Civil and Building Engineering, Loughborough University

Wesley Webb CHEEK Urban Studies Pre-Doctoral Fellow, City, Culture and  
Community, Tulane University

■国内招聘講師

田中 禎彦	文化庁文化財部参事官（建造物担当）・文化財調査官
村上 裕道	兵庫県教育委員会事務局・事務局参事（文化財担当）
鶴岡 典慶	京都府教育庁指導部文化財保護課・建造物担当課長
小宮 睦	京都府教育庁指導部文化財保護課・建造物担当副課長
目片 貴美子	京都市消防局予防部予防課・文化財係長
那谷 章	京都市東山消防署・予防課長
澤井 健二	摂南大学・名誉教授
平岡 善浩	公立大学法人宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科・教授
Rajib SHAW	慶應義塾大学 政策メディア研究科・教授
宮川 禎一	独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館・学芸部上席研究員
降幡 順子	独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館・保存科学室長
高妻 洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター長
久保田 裕道	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所・文化財調査官

■学内講師

土岐 憲三	衣笠総合研究機構・教授
板谷 直子	衣笠総合研究機構・准教授
藤本 将光	理工学部 都市システム工学科・准教授
大窪 健之	理工学部 都市システム工学科・教授
吉富 信太	理工学部 建築都市デザイン学科・教授
深川 良一	理工学部 都市システム工学科・教授
里深 好文	理工学部 都市システム工学科・教授
花岡 和聖	文学部 地域研究学域・准教授
石田 優子	総合科学技術研究機構・専門研究員
Rohit JIGYASU	衣笠総合研究機構・教授（コーディネーター）
金 度源	衣笠総合研究機構・准教授（コーディネーター）

■見学ワークショップ等補助若手研究者

崔 明姫	衣笠総合研究機構・専門研究員
谷端 郷	衣笠総合研究機構・専門研究員

## 【第 11 回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式：2017 年 10 月 28 日（土）

開催場所：立命館大学 歴史都市防災研究所 カンファレンスホール

応募作品：45 作品 52 名

協 賛：セコム株式会社、株式会社パスコ、日本ミクニヤ株式会社、F レンタリース株式会社、株式会社帝国書院、第一通商株式会社、マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、株式会社ネスト・ジャパン、NPO 法人災害ボランティアステーション日本（順不同）

後 援：国土地理院、コクヨマーケティング株式会社、京都新聞、KBS 京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、人文地理学会、立命館地理学会、京都府警察（順不同）

概 要：

立命館大学 歴史都市防災研究所では、大学による社会貢献の一環として、2007 年度より小学生とその保護者を対象に「地域の安全安心マップコンテスト」を実施している。地図の作成を通じて地域の安全安心を考える取り組みを評価し、促進するために毎年開催しているイベントであり、今年度はその第 11 回目開催であった。本事業は、身のまわりに存在する地震や津波といった自然災害や、自動車や自転車との交通事故、不審者による犯罪の不安など、安全安心を脅かす要素について、小学生以下の子供が自らの体験を通じて理解するばかりでなく、地図によって周囲とその情報を共有することができる取り組みである。

今回はテーマ、表現形式、利用方法などで多様に工夫された地図 45 作品の応募があった。表彰式において審査委員から各入賞作品の講評が行われ、作品の意図や伝えたいテーマの意義が明確となり、参加者の関心を引き付けた。出張授業に関しては、今年度は当研究所の若手研究者が中心となり、要望のあった小学校に出向いてマップづくり講習会を実施するなど、子供の身の回りの安全に対する意識の醸成につながる活動にも力を注いだ。当該事業を研究所活動の柱の一つとして、引き続き実施する予定である。



表彰式の様子



受賞者による作品紹介の様子

## 【アライグマシンポジウム2017 「拡大する外来アライグマ・ハクビシンの問題点と対策」】

開催日時：2017年12月10日（日） 14：00～17：20

開催場所：立命館大学 歴史都市防災研究所 カンファレンスルーム

主催：関西野生生物研究所、立命館大学歴史都市防災研究所

講演者：川道美枝子（関西野生生物研究所）、幸田良介（地方独立行政法人大阪府立環境農  
林水産総合研究所、前田秋彦（京都産業大学）、米島万有子（熊本大学）、中谷友樹  
（立命館大学）、泉知論（立命館大学）

### 概要：

外来の中型哺乳動物であるアライグマ・ハクビシンの生息域が国内で拡大している。まず、京都、青森、大阪を対象とした地域的な生息域拡大の実態が報告された。続けて、拡大によって生じる被害・脅威について、感染症のベクターとなる問題と、文化遺産である社寺建造物への侵入被害に関する報告がなされた。最後に様々な考えられる対策がある中で、被害防止につながる監視装置の高度化に関する取り組みが紹介された。総合的な討論の時間では、地域的な監視の広域的な連携化の必要性や、農作物被害に限定せずに外来生物の脅威を社会に理解してもらう重要性、監視装置の高度化に資する情報資産の構築などについて、活発な質疑がなされた。



講演の様子

## 【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。

今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

### 2016 年度

#### 【第 7 回定例研究会】

開催日：2017 年 3 月 4 日（土）14：30～16：45

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

運営委員会からの報告（全体概要）

大窪 健之（歴史都市防災研究所 所長）

各部会からの報告

A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

C 部会 歴史文化都市の防災デザイン

2017 年度ユネスコ・チェア国際研修開催に向けた進捗報告

評価委員からの内部評価

### 2017 年度

#### 【第 1 回定例研究会】

開催日：2017 年 4 月 22 日（土）10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

大窪 健之（歴史都市防災研究所 所長）

「2017 年度の研究所活動について」

矢野 桂司（文学部 教授）

「ジオデザイン・ワークショップ 2016：京都府与謝野町の将来計画」

吉富 信太（理工学部 教授）

「伝統的木造建物の振動計測に基づく構造特性の推定」

青柳 憲昌（理工学部 講師）

「歴史都市の防災文化に関する研究—富田林寺内町の防災的特性（中間報告）」

**【第2回定例研究会】**

開催日：2017年5月27日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

谷端 郷（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「宮城県南三陸町志津川地区の祭礼を事例とした「記憶地図」調査の経過報告」

大窪 健之（理工学部 教授）

「ホース延長を考慮した改良型市民消火栓の配置計画に関する研究—京都市清水周辺地域を対象として—」

崔 明姫（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「熊本地震による観光業の経済的被害と回復状況について—観光関連事業所へのアンケート調査結果を踏まえて—」

**【第3回定例研究会】**

開催日：2017年6月24日（土） 13：30～15：30

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

泉 知論（理工学部 教授）

「獣害対策のためのアライグマ自動認識の試行」

持田 泰秀（理工学部 教授）

「近代の世界遺産「国立西洋美術館本館」のデザインへの構造的な在り方に関する研究」

豊田 祐輔（政策科学部 准教授）

「大地震後における姫路城観光客の帰宅意図に関する研究」

**【第4回定例研究会】**

開催日：2017年10月14日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

花岡 和聖（文学部 准教授）

「歴史都市防災研究における地理的ビッグデータの活用について」

小林 泰三（理工学部 教授）

「豪雨による土砂災害の危険度予測技術～文化遺産防災への適用に向けた課題と展望～」

山崎 有恒（文学部 教授）

「歴史学から見た近代京都の災害」

『文化遺産防災ハンドブック』改訂についての意見交換

**【第 5 回定例研究会】**

開催日：2017 年 12 月 2 日（土） 10：00～12：00

開催場所：立命館大学朱雀キャンパス 6 階 601 東会議室

発表者および報告内容：

川道 美枝子（関西野生生物研究所 代表）

「京都市内のアライグマ・ハクビシン、根絶の可能性は？」

鈴木 祥之（衣笠総合研究機構 教授）

「三重塔・五重塔を建設する - 本格的な伝統工法で -」

高杉 三四郎（理工学研究科 博士課程前期課程 2 回生）

「2015 年ネパール・ゴルカ地震における地域遺産の活用実態調査と防災活動指針の提案—  
世界遺産カトマンズ・パタン地区の伝統的な中庭に着目して—」

**【第 6 回定例研究会】**

開催日：2018 年 1 月 20 日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都 5 階 第 2・3 演習室

発表者および報告内容：

河角 直美（文学部 准教授）

「記憶地図から読む地域の景観の歴史—仁和寺門前地域を対象とした GIS データベース活用  
用例—」

石田 優子（総合科学技術研究機構 専門研究員）

「タイ王国アユタヤの仏塔傾斜に関する研究」

清水 泰有（政策科学研究科 博士課程後期課程 1 回生）

「イタリア中部地震の被害および復興状況の調査について—歴史都市の復興継承に向けた  
被災後情報共有システムに関する一考察—」

金 度源（衣笠総合研究機構 准教授）

立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修開催報告

**【第 7 回定例研究会】（予定）**

開催日：2018 年 3 月 5 日（月） 14:40～17:00

開催場所：朱雀キャンパス 1 階 多目的室

発表者および報告内容：

各研究部会 2017 年度活動報告・2018 年度活動計画（予定）

内部評価／その他委員会からの報告